

手を差し伸べられる人を目指して

卒業生

国際基督教大学教養学部1年

キム イェイル さん

中高と北陸学院で学ぶ
北陸学院高等学校2022年度卒業

高校生活では英語学習や部活動、委員会活動などに尽力。大学は英語で受講し、留学などに向けてスキル向上に努めている。



里子の状況を、掲示物などを通して発信しました。

英語を学んだ日々

中学から授業や英語弁論大会を通して、積極的に英語を学習。高校でもESSに入って英語劇やスピーチ大会に参加したり、自宅でも英会話の練習をしたりと、スピーキング力を伸ばす訓練を重ねました。また、高校宗教委員会で、里子の支援活動に取り組みました。コロナ禍で海外研修ができなかった中、「日本の当たり前が、世界の当たり前ではない」ことを知れて、良い機会だったと思います。

「自分」を知れる学校

ミッションでは、毎朝の礼拝に込められているメッセージを通して、賜物や使命について繰り返し考える機会があります。「自分の賜物は何か」「何のために生きるのか」を問いながら、経験と重ね合わせて進路を決めていける学校です。先生方も親身に話を聴いてくださるこの学校で、みなさんにも自分の賜物や使命を探してみてください。

頑張りが道を拓く

高校では英語以外の教科にも力を入れ、2年の頃から指定校推薦を意識して勉強しました。3年で進路選択に悩んでいた時、担任の先生に相談したところ、国際基督教大学を薦めてもらいました。留学生が多いことや、大学3年次に2つの専攻を選べるためさまざまな分野を知る友人と学び合えそうだと感じたことが、志望する決め手になりました。

「隣人」の話が多く出てくるのが印象的でした。



世界に目を向けつづける

中高での学びを通して、「他者のために仕える」ことが使命だと感じています。ボランティアなどで人と関わることで、自身の賜物と向き合い、成長できました。今も自分の努力が誰かの支えになると信じ、大学のプログラムを活用して発展途上国に行けるよう学びを深めています。ミッションでの経験から、世界で心の病や貧困に苦しむ方に寄り添える人になりたいです。



学校行事では、福祉施設を訪問する機会も。